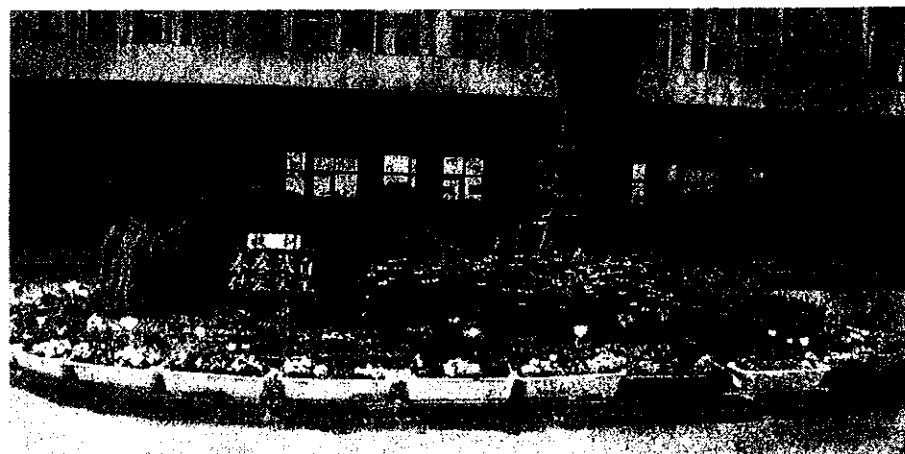


# 学習の手引き2019

大和高田市立高田西中学校

第2学年



## はじめに



### ◎「学習の手引き」について

このような冊子をすべての学校で出しているものではありませんが、学校の教育活動に関する、各教科ごとのねらい（目標）や計画、授業の進め方、使用する教科書や副教材、評価のしかた、学習のしかたやアドバイスなどを、生徒や保護者のみなさんに示した説明書です。

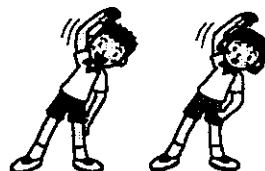
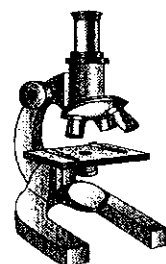


### ◎「学習の手引き」に示していること

「学習の手引き」には各教科で

- ① それぞれの教科が目標としている、ねらいは何だろう
- ② どんな学習がどんなふうに進んでいくのだろう
- ③ 家庭学習の進め方や、テストに向けた取り組み方のアドバイス
- ④ テストや授業でどんな力が育っているのかを見る方法について
- ⑤ 授業や学習方法全般へのアドバイス
- ⑥ 1年間のうちでどんな学習がいつごろ行われ、それぞれの時期にどんな力をつけていくのだろう

ということを書かれています。



### ◎「学習の手引き」を通して、みなさんの学習に期待すること

この「学習の手引き」を本棚に立てておいただけでは役には立ちません。

みなさんが、これらのアドバイスをもとに、自分の力を伸ばしていく手助けとなるように、つくった冊子です。

学校では主として、授業を通じて学習を進めます。けれども、自ら学ぼうとしないと、勉強したことは頭に入ってはきません。勉強したことを使わないと自らの力にはなりません。学習は身体全体を活用することが大切です。目と耳だけではなく、全身で集中して授業や家庭学習に取り組んでください。

たとえば、ある教科の学習で

- ・ 黙読だけでなく、何度も声に出して音読する
- ・ ただ読むだけでなく、線やマーカーを入れながら読む
- ・ 読んで分かってきた大切なところを何度も書いてみる
- ・ 分かってきたら、問題を解いてみる

が効果的である、とされています。



でも、自分でやってみないと効果があるか、自分にふさわしい方法かどうかは分かりません。この「学習の手引き」を活用し、自分流の脳の磨き方を獲得し、「他の動物にはできない、人間にだけ可能な『なりたい自分』の実現」を、ぜひ目指してください。

平成 31 年度 第 2 学年 国 語 科

1	週単位時間	4 時間	2	授業形態	学級単位の普通授業
3	使用教科書	光村図書（国語2） 東京書籍（新編新しい書写1・2・3年）			
4	副教材としての使用教材など	○新国語便覧 秀学社 ○光村の国語のワーク 光村教育図書 ○単元別漢字マスター 学宝社 ○新しい文法ワーク 明治図書			
5	この教科の学習のねらい	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めると共に、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に関する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。一年の学習を基本に、社会生活にかかわることなどについて、立場や考えの違いをふまえ、比較しながら学ぶ。書写については、文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる。			
6	授業の進め方	あとで見直しできるようにノート丁寧に書き、整理し、まとめましょう。また、黒板を写すだけでなく、メモをたくさんとり、学習に役立てましょう。授業中は、自分で考え発表する力をつけるために、積極的に発言し、互いの意見を尊重する授業をつくりあげていきましょう。			
7	家庭学習や課題について	その日の授業の復習（教科書を読み返したり、ノートを見直したりして振り返る）を積み重ねましょう。また、学習ワークで語句の意味調べや予習・確認をしたり、漢字ワークで漢字を反復して覚えたりしていきましょう。			
8	定期テストや評価の方法について	年5回の定期テスト（1学期中間・期末、2学期中間・期末、3学期期末）を行い、国語科の5つの観点の内、「書くこと」「読むこと」「言語に関する知識・理解」を評価します。授業の中では「関心・意欲・態度」「話す・聞く」を含めた5観点全てについて評価を行います。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する知識・理解」の中に、書写も含まれます。また課題への取り組み、提出物、小テスト、評価プリント、授業での発言なども評価に加えます。			
9	授業や学習に対するアドバイス	教科書・ノート・ワークなどの準備物を忘れず、集中して、意欲的に授業に取り組みましょう。わからないことは遠慮なく質問しましょう。また、友達の考えをしっかりと聞いて、自分の考えも積極的に述べましょう。			
10	年間の学習事項と評価				
時期	学習内容（単元・章・節など）	目標（つけたい力）		指導の要点・評価事項など	
4月	詩（読む）	言葉や表現に着目し、作者の感じ方をとらえ、朗読する。		比喩などの表現技巧を理解し、朗読につなげられたか。	
5月	物語①（読む）	話の展開に沿って登場人物の心の変化を読み取る。		情景描写に着目し、人物の気持ちを読み取れたか。	
	古文①（読む）	「枕草子」に描かれている季節感を読み味わう。		「枕草子」の特徴を知り、筆者の季節感を味わい、朗読に生かしたか。	
	説明文（読む）	事実と意見の違いに注意しながら読み取る。		事実と意見を読み分け、論理の展開のしかたを読み取れたか。	
6月	熟語の構成（言語） 「伝わる」表現①（話す・聞く）	場の状況や相手の様子に応じて話す工夫を聞き取る。		「伝わる」表現について考えることができたか。	
	職業ガイドを作る（書く）	多様な方法で情報を集めながら、自分の考えをまとめる。		書いた作品を読み、情報の活用のしかたなどについて助言し合えたか。	
	類義語・対義語・多義語（言語）				
7月	短歌①（読む）	短歌に親しみ、表現の美しさを味わう。		短歌に対する理解を深め、表現の美しさを味わえたか。	
	文法① 活用のある自立語（言語） 「伝わる」表現②（話す・聞く）	場の状況や相手の様子に応じて話す工夫を聞き取る。		「伝わる」表現について考えることができたか。	
	短歌②（読む）	多くの短歌を、歌われている情景や作者の思いを想像しながら読み味わう。		短歌に対する理解を深め、表現の美しさを味わえたか。	
9月	物語②（読む）	登場人物それぞれの人柄や思いをとらえる。		登場人物の人柄や思いをとらえられたか。	
	随筆①（読む）	家族のきずなや登場人物の心情をとらえる。		家族のきずなや登場人物の心情をとらえられたか。	

時期	学習内容（単元・章・節など）	目標(つきたい力)	指導の要点・評価事項など
10月	手紙の書きかた（書く）	自分の立場及び伝えたい事項を明確にして文章の構成を工夫する。	職場体験学習で、お礼状の工夫をすることができたか。
	文法② 活用のない自立語（言語） 「伝わる」表現③（話す・聞く）	場の状況や相手の様子に応じて話す工夫を聞き取る。	「伝わる」表現について考えることができたか。
11月	同訓・同音の漢字（言語） 古文②（読む）	和漢混交文の文体に親しみ、リズム感と表現の工夫を理解する。	文体の特徴を知り、表現技巧に着目して読み取ることができたか。
12月	古文③（読む） 「伝わる」表現④（話す・聞く）	話のおもしろさを読み取り、作者の思いについて考える。 場の状況や相手の様子に応じて話す工夫を聞き取る。	随筆の特徴や話のおもしろさを読み取ることができたか。 「伝わる」表現について考えることができたか。
1月	漢文（読む） 評論（読む）	漢詩の読み方を理解し、独特の言い回しや表現方法を知る。 語句や表現の工夫に着目して、筆者のものの見方や考え方を読み取る。	表現方法を理解し、漢詩の世界にひたることができたか。 自分の知識や体験と関連づけながら、論理の展開のしかたを読み取れたか。
2月	物語③（読む） 文法③ 付属語（言語） 方言と共通語（言語） 送り仮名（言語） 「伝わる」表現⑤（話す・聞く）	登場人物の生き方について自分の考えをもたせる。 場の状況や相手の様子に応じて話す工夫を聞き取る。	登場人物の生き方について自分の考えをもてたか。 「伝わる」表現について考えることができたか。
3月	意見を伝える（話す・聞く 書く） 読書（読む）	情報を多様な方法で収集し、自分の意見発表に役立てる。 教材文を通して、さまざまな状況やそこに生きる人の姿に触れる。	意見や助言をしながら、互いの考えを広げられたか。 読書を通して、自分の考えを深められたか。

書写については、国語科指導の中で適宜、指導します。（例）ノートの取り方、文字の整え方、漢字の書き取り、視写など。必要に応じて、鉛筆や毛筆、万年筆などを使用します。

平成 31年度 第 2 学年 社会科 シラバス			
1	週単位時間	3 時間	2 授業形態 学級単位の普通授業
3	使用教科書	日本文教出版 中学社会地理的分野 日本文教出版 中学社会歴史的分野	
4	副教材としての使用教材など	地理的分野・・・「中学校社会科地図」(帝国書院)、「アクティブ地理」(浜島書店)、地理の完全学習 歴史的分野・・・「つながる歴史」(浜島書店)、歴史の完全学習	
5	この教科の学習のねらい	日本や世界の地理的事象や歴史的事象に対する関心を高め、多面的・多角的に考察し、見方や考え方の基礎を培い、地理的認識・歴史的認識を着実に身に付ける。	
6	授業の進め方	教室で一斉授業を行う。2年次中頃から歴史的分野に移行し、地理と歴史を平行に進めていく。	
7	家庭学習や課題について	授業の予習として、教科書をしっかり読んでおくこと。授業で習ったことを、プリントやワークを使い復習しておくこと。	
8	定期テストや評価の方法について	1年間に5回の定期テストを行う(1学期は「中間」「期末」、2学期は「中間」「期末」、3学期は「期末」)。定期テストだけでなく、ノートやワークの提出、授業の様子なども評価の対象とする。	
9	授業や学習に対するアドバイス	授業の準備物や提出物など忘れ物がないようにし、授業に集中することがもっとも基本であり大切である。授業で学習することに関連する内容、新たな発見などが新聞やテレビのニュースとして伝えられることが多いので、日常的に社会に関することについて関心をもってほしい。学習内容のうちで基本的なものは繰り返し出てくることが多いのでしっかり理解しておくことが必要である。	
10	年間の学習事項と評価		
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つきたい力)	指導の要点・評価事項など
4月	第1章 日本の姿 第2章 世界からみた日本の姿 第1節 自然環境や災害・防災からみた日本	○日本の様々な地域区分や、県の名称と位置、県庁所在地の名称を理解すること ○地形図の約束を理解し、読図能力を高めることができる。	・日本の国土の位置、世界各地との時差、領域をめぐる問題などを理解し、その知識を身に付ける。 ・県の名称と位置、県庁所在地の名称、地域区分などを理解し、その知識を身に付けている。 ・地形図の約束事を理解し、その知識を身に付けている。
5月	第2節 人口からみた日本 第3節 資源・エネルギーと産業からみた日本	○世界的視野から日本を1つの地域として取扱い、日本の国土の特色を理解することができる。 ○日本全体の視野からおおまかな国内の地域差に着目し、日本の国土の特色を理解することができる。	・世界的視野や日本全体の視野からみた日本の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追及している。 ・日本全体の視野からおおまかな国内の地域差について理解し、その知識を身に付けている。
6月	第4節 結びつきからみた日本	○日本の地域的特色を、自然環境や災害・防災、人口、資源エネルギーと産業、結びつきの面から理解することができる。	・世界的視野からみた日本の国土の特色について理解し、その知識を身に付けている。
7月	第3章 日本の諸地域 第1節 九州地方 第2節 中国・四国地方	○九州地方、中国・四国地方、近畿地方、中部地方、関東地方、東北地方、北海道地方の基礎的・基本的な地域的特色を大観する。 ○日本の各地方に考察の仕方を設定し、各地方の特色ある地理的事象や事柄を、他の事象と有機的に関連付けて追及し、九州地方、中国・四国地方、近畿地方、中部地方、関東地方、東北地方、北海道地方の地域的特色をとらえることができる。	・日本の各地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追及している。 ・日本の各地方に設定した考察の仕方に基づき、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
9月	第3節 近畿地方 第4節 中部地方 第5節 関東地方 第7節 北海道地方 第4章 身近な地域の調査 -愛知県小牧市を例に-	○地図・グラフ・写真などの資料を活用し、各地方の地域的特色や地理的な見方・考え方の定着を図ることができる。 ○市町村規模の地域の調査を行う際の視野や調べ方、まとめ方などの方法を身に付けることができる。	・様々な資料から、日本の各地方の地域的特色についての情報を適切に読み取っている。 ・市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法を身に付けている。
10月	○歴史的分野 第4編 近世の日本 第1節 中世から近世へ 第2節 江戸幕府の成立と東アジア	○織田・豊田による統一事業を通して、日本の近世社会の基礎がつけられたことを理解することができる。 ○江戸幕府の政治の特色を考えさせ、その支配のもとに生まれた社会が、その後長く続いたことを理解することができる。 ○ヨーロッパ文化の伝来や東南アジア各地への日本人の渡航など、対外関係が活発な時期から外国との交渉が限定された時期へと移っていったことを理解することができる。	・織田・豊田による統一事業のあらし、江戸幕府と藩による支配、町人文化や各地方の生活文化、幕府政治のゆきづまりなどの近世の歴史的事象から課題を見つけ、多角的・多面的に考察し公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
11月	第3節 産業の発展と元禄文化 第4節 幕府政治の改革と農村の変化	○幕府の政治改革と政治のゆきづまりの原因について考えることができる。 ○身近な事例を取り上げてその特色を考えることを通して、産業や交通が著しく発達し、町人文化や各地方の生活文化が形成されたことに気づくことができる。	・幕府政治が次第にゆきづまり、立て直しが進められたことを理解し、その知識を身に付けている。
12月	第5編 近代の日本と世界 第1章 日本の近代化 第1節 欧米の発展とアジアの植民地化	○欧米諸国が市民革命や産業革命によって近代社会を成立させて、アジアへ進出したことを理解することができる。	・欧米諸国における近代社会の成立とアジアへの進出、日本の開国とその影響、明治維新以降の日本の近代国家の形成、日清・日露戦争や条約改正による国際的な地位の向上、近代産業の発展と近代文化の形成、近代化の過程における人々の生活の大きな変化などについて課題を見だし、多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
1月	第2節 近世から近代へ 第3節 近代国家へのあゆみ	○新政府の改革の特色を考え、明治維新によって近代国家の基礎が整えられたことや、人々の生活が大きく変化したことを理解することができる。	
2月	第4節 立憲制国家の成立 第5節 日清・日露の戦争と東アジアの動き	○立憲制の国家が成立して議院政治が始まるとともに、日清・日露戦争、条約改正などによって日本の国際的地位が向上したことを理解することができる。	
3月	第6節 近代日本の社会と文化	○日本で近代産業が発展し、近代文化が形成された原因や、それによって都市や農村の生活にどのような変化が生じたのかを理解することができる。	・日本で近代産業が発展し、近代文化の形成されたこと、近代化の過程で人々の生活に大きな変化が生じたことを理解し、その知識を身に付けている。

平成 31年度 第 2 学年 数 学 科 シラバス

1	週単位時間	3 時間	2	授業形態	複数教員による入り込み授業
3	使用教科書	数研出版「中学校数学 2」			
4	副教材としての使用教材など	正進社 わかりやすい数学②			
5	この教科の学習のねらい	1年生での学習をもとに、数についての理解を一層深め、文字を使った式を用いることで便利に考えたり、計算できることを学びます。また身の回りにある事象から関係性や図形について考えを整理し、深めます。こうして物事をきちんととらえ、便利な考え方や役立つ方法を利用する姿勢を身につけます。			
6	授業の進め方	授業の初めに5問程度の練習問題を行います。既に学習したことがらを大切にしながら、これを活用するような内容に深めます。仕組みや成り立ちを学び、より良く考えたり、解いたりする姿勢を引き出します。定期テストではファイル・ワークの提出があるので、黒板をしっかりと写しましょう。問いや練習問題を解くときに、質問ができる機会があるので、積極的に取り組みましょう。チーム・ティーチングにより、更に質問できる機会が増えるので、小さな疑問も逃すことなく取り組みましょう。			
7	家庭学習や課題について	毎日繰り返し練習することが大切な教科です。授業で出された宿題は必ずその日のうちにやりましょう。また宿題のない日も、授業で習った範囲を復習し、教科書やワークの問題で練習をしましょう。宿題や提出物、長期休み中の課題などに対する頑張りや「数学に関する関心・意欲」の評価にも加えます。			
8	定期テストや評価の方法について	4つの観点で評価をします。 ○関心・意欲・態度・・・ファイルの評価、ワークの評価、出席点、授業への取り組み方 ○見方・考え方・・・定期テストにおいて、見方・考え方を問う問題を出題し、その点数で評価します。 ○数学的な技能・・・その単元での基本的な計算等について、定期テストで問います。 ○知識・理解・・・その単元において必要な知識やそれについての理解力を定期テストで問います。			
9	授業や学習に対するアドバイス	授業に必要な教科書・ファイル2冊・ワークの4点セットと、単元によりコンパス・直定規などの準備物を忘れないこと。自分から分かるとうとする気持ちを大切に、しっかり聞く・身体全体で学ぶなど”集中力”を養い、伸ばしましょう。分からないことをそのままにしておかず、遠慮なく質問しましょう。そして、何度も繰り返し練習することで、確かな力を身につけていきましょう。毎日少しずつでもコツコツと続けることが大切です。			
10	年間の学習事項と評価				
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つきたい力)		指導の要点・評価事項など	
4月	ガイダンス  単項式と多項式  式の計算	数学の学習方法や授業の進め方など、シラバスの内容を知る。  単項式、多項式、項、式の次数、1次式の意味を理解する。  同類項の意味を知り、同類項をまとめることができる。 整式の加減、多項式と数の乗除、単項式の乗除の計算ができる。		教科のねらい、評価の仕方、大切にしたいことについての説明。  単項式と多項式の違いを理解しているか。 次数は「文字の種類」ではなく、「かけられている文字の個数」であることをおさえる。  同類項の意味を理解しているか。 多項式どうしの加減の計算ができるか。 多項式と数との乗除の計算を分配法則を利用してできるか。 単項式どうしの乗除や乗法と除法の混じった計算ができるか。	
5月	式の値  文字式の利用	文字を2つ含む式を代入により式の値を求めることができる。  いろいろな整数を文字を使って表すことができる。 整数の性質や図形に関する問題を、文字を用いた式を利用して説明することができる。  目的に応じて自由に式を変形することができる。		式を簡単にしてから代入し、式の値を求めることができるか。  いろいろな整数を文字を使って表すことができるか。表した式を利用して整数の性質や図形に関する問題を説明することができるか。  目的に応じて等式を変形することができ、変形することの良さに気づく。	
6月	連立方程式   連立方程式の利用	連立方程式の意味やその解、連立方程式を解くことの意味を理解する。  連立方程式を加減法、代入法で解くことができる。  かっこをふくんだり、分数係数、小数係数をもつ連立方程式を解くことができる。  速さや割合の問題等、具体的な問題を連立方程式をたて解くことができる。		2元1次方程式、連立方程式の意味とそれらの解の意味を理解しているか。  連立方程式をその問題に応じて、適当な方法(加減法・代入法)で解くことができるか。  方程式の係数を簡単にするなど1年の学習の関連づけて解くことができるか。  具体的な場面で、数量の関係をとらえて、連立方程式をつくり、その答えが求められるか。	

7月	1次関数	1次関数の意味を理解し、関係式を覚える。	事象の中から1次関数を見つけ、式に表すことができるか。
9月	1次関数と方程式	1次関数の変化の割合の意味を理解し、それを求めることができる。 グラフの傾きと切片の意味を理解し、グラフをかくことができる。 1次関数における、表、式、グラフの関係を理解することができる。 与えられた条件を使って、1次関数を求めることができる。 2元1次方程式のグラフをかくことができる。 $y = k$ のグラフの意味を知り、グラフをかくことができる。 連立方程式の解の意味を、2元1次方程式のグラフを通して理解することができる。	変化の割合の意味を理解するとともに、変化の割合は一定であることを知る。 グラフの傾きと切片の意味を理解し、グラフをかくことができるか。 1次関数の関係を、表、式、グラフなどで表現したり、その特徴を読みとることができるか。 与えられた条件を使って、1次関数を求めることができるか。 等式の変形を利用し、2元1次方程式のグラフをかくことができるか。 $y = k$ のグラフの意味を知り、グラフをかくことができるか。 連立方程式の解をグラフから求めることができるか。グラフの交点の座標を、連立方程式を解いて求めることができるか。
10月	1次関数の利用	実験の結果を利用したり、動点による面積の変化などグラフに表し、グラフを利用して問題を解くことができる。	具体的な事象について、1次関数を用いてとらえ、表、式、グラフなどと具体的な事象とを関連づけて問題を解くことができるか。
11月	平行線と角	多角形の内角と外角の意味を知り、その大きさを求めることができる。 対頂角、同位角、錯角の意味を知り、平行線との関係に置いて、その大きさを求めることができる。	多角形の内角の和、外角の和の性質を知り、その大きさを求めることができるか。 対頂角や平行線と角の性質を利用して、角の大きさを求めることができるか。
	合同な図形	合同な図形の意味や性質を理解する。	合同な図形の対応する線分や角は等しいことを理解できているか。
	三角形の合同条件	三角形が1通りに決まる条件を理解し、図形の性質の証明に合同条件を用いることができる。	三角形の合同条件を理解し、合同条件を用いて図形の性質を証明することができるか。
	証明	仮定と結論の意味を理解し、図形の性質を証明することができる。	仮定と結論の意味を理解し、根拠となることがらを明らかにして図形の性質を証明することができるか。
12月	三角形	二等辺三角形の定義やその性質を理解し、二等辺三角形になるための条件を利用して、図形の性質を証明することができる。	二等辺三角形の定義やその性質を理解できているか。二等辺三角形になるための条件を利用して、図形の性質を証明することができるか。
1月		直角三角形の合同条件を理解し、その合同条件を利用して、図形の性質を証明することができる。	直角三角形の合同条件を用いて、図形の性質を証明することができるか。
2月	平行四辺形	平行四辺形の成り立ちをつかみ、性質について筋道を立てて考えることができる。 条件により平行四辺形が特別な四角形に結びつくことを知る。	平行四辺形の性質がわかり、平行四辺形になるための条件が理解できているか。平行四辺形と長方形・ひし形・正方形の関連をつかんでいるか。
	面積が等しい三角形	平行線を使って、等しい面積の三角形を見つけたり、書いたり、考えたりすることができる。	底辺が同じで、高さが等しい三角形を作図したり、考えたりするときに、頂点はどんな線をたどるかを理解して、活用できるか。
3月	確率	確率について考え、多数の実験結果や試行により、起こりやすさを計算したり、比べたりできる。 様々なケースや不確定な事象について樹形図をもとに考えを整理できる。	多数の試行や実験から、確率の考え方がおさえられているか。 簡単なケースについて確率を求めることができるか。 いろいろなケースについて確率を求めることができるか。

1	週単位時間	4時間	2	授業形態	全体授業
3	使用教科書	東京書籍「新編 新しい科学 2」			
4	副教材としての 使用教材など	中学理科ノート2年(正進社)・理科の完全学習2年(正進社)など			
5	この教科の学習 のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>●身のまわりの自然に興味をもち、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる方法や技術を身につける。</li> <li>●自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。</li> </ul>			
6	授業の進め方	・普通は理科室での全体授業を行います。実験・観察を行う場合は、2～3人や5～6人のグループで行い、終了後にはノートやレポートの提出を求められることもあります。			
7	家庭学習や課題 について	・授業のあった日には、家に帰って授業ノートを見直すなど復習を行い、分からないところがあれば早めに質問して理解するようにしましょう。また、宿題や課題はその日のうちにやり、期限に遅れず提出することが大切です。余裕のある人は、自分に合った問題集を一冊購入し、復習すると効果的です。			
8	定期テストや評価 の方法について	・1年間に5回の定期テストを行います。また、夏休み明けと冬休み明けには、休み明け課題テストを行う場合があります。各テストでは「実験観察の技能・表現が身についているか」「科学的に物事を考えられるか」「科学に関する知識が身についているか」を中心に評価をします。また、実験観察への取組・レポートの作成、各種小テスト、課題提出とその内容、授業でのようすなども評価の対象となります。			
9	授業や学習に対 するアドバイス	・重要な語句、実験器具の名前や扱い方などはくり返し出てくるので必ず覚えてください。物事には必ず理由があるので、まわりのことと関連づけて考えて覚えると良いでしょう。考えをより深めるためにも、身近な自然や現象、社会の動きに注意をはらっておいてください。授業中は考えたことを手をあげて積極的に発言し、互いに交流してください。			
10	年間の学習事項と評価				
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つきたい力)	指導の要点・評価事項など		
4月	化学分野 化学変化と原子・分子 1章 物質のなり立ち	分解して生成した物質から元の物質の成分が推定できることを見いだす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験結果から、どんな物質が生成したのか考えている。</li> <li>・物質は熱や電流によって分解することが分かっている。</li> <li>・化学式から、物質を構成する原子の種類や数を考えている。</li> </ul>		
5月	2章 物質どうしの化学変化	物質は原子や分子からできており、原子や分子は記号で表されることをとらえる。 化学変化は原子や分子のモデルで説明でき、化学反応式で表されることをとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状態変化と化学変化の違いを原子分子モデルで考えている。</li> <li>・化学変化は全く別の性質を持つ物質がつくられることが分かっている。</li> </ul>		
	3章 酸素がかかわる化学変化	金属と硫黄を化合させ反応前後の物質の性質を調べ、反応で別の一つの物質ができることを見いだす。 自然界にある金属の酸化物から、金属を取り出せる事を見いだす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学変化は全く別の性質を持つ物質がつくられることが分かっている。</li> <li>・金属資源は酸化物を還元することによってできることが分かっている。</li> </ul>		
6月	4章 化学変化と物質の質量	化学変化では反応物の質量の総和と生成物の質量の総和とが等しいことや、反応する物質の質量の間に一定の関係があることを見いだす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質量が保存されることを原子・分子のモデルで考えている。</li> <li>・反応前後で物質の質量の総和が等しいことが分かっている。</li> <li>・金属に化合する酸素の質量には限界があることが分かっている。</li> </ul>		
	5章 化学変化とその利用	化学変化で、熱の出入りがあることを見いだす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学変化には、熱を出すものと、熱が吸収されるものがあることが分かっている。</li> </ul>		



時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つきたい力)	指導の要点・評価事項など
7月	生物分野 動物の生活と生物の変遷 1章 生物と細胞	植物と動物の細胞の共通点と相違点、多細胞生物の体の成り立ちを理解する。	・植物と動物の細胞の共通点と相違点及び各部の名称やはたらきがわかっている。 ・細胞、組織、器官の例をあげて説明でき、それぞれの意味がわかっている。
9月	2章 動物のからだのつくりとはたらき	動物のからだには、必要な物質を取り入れ運搬し、不要な物質を排出する仕組みがあることを観察し実験結果と関連付けてとらえる。	・だ液はデンプンを糖に変えることが分かっている。 ・心臓は血液を循環させるためのポンプであること、血液が必要物質や不要物を運んでいることが分かっている。
10月	3章 動物の分類	感覚器官で受け入れられた刺激が脳や脊髄に伝えられ、反応がおこるまでのしくみを理解する。	・刺激を受けてから反応するまでを筋道を立てて考えている。
	4章 生物の変遷と進化	節足動物、軟体動物の体の特徴や生活のしかたを見いだす。	・昆虫類、甲殻類の相違点や共通点、イカ等の軟体動物の特徴が分かっている。
	地学分野 天気とその変化 1章 気象観測と雲のでき方	セキツイ動物はどのように進化してきたのかを水中から陸上への拡がりから総合的にとらえる。	・セキツイ動物の5種類のなかまが共通の祖先を持ち段階的に進化してきたこと、それぞれの特徴が分かっている。
11月	2章 前線とそのまわりの天気の変化	空気中の水蒸気が霧や雲になる変化を、気圧や気温及び湿度が変化することとの関連を見いだす。	・空気中の水蒸気が水滴になる条件について考え、説明できる。 ・雲は空気中の水蒸気が凝結してできることが分かっている。
	3章 大気の動きと日本の天気	気象観測の記録から、気温、湿度、気圧、風向などの変化が天気と関係があることを見いだす。	・観測データから天気の変化の規則性を考えている。 ・高気圧、低気圧での風の吹き方が分かっている。
12月	1章 静電気と電流	天気の变化を暖気や寒気の移動と関連付けてとらえる。	・前線の断面図から雲のでき方や天気の特徴を考えている。
	2章 電流の性質	地球規模の大気の動きと、日本の四季の天気の特徴が関係があることを見いだす。	・地球的な大気の動き、及び、陸と海との境界で大気はどのように動くかが分かっている。 ・日本の四季の天気の特徴が分かっている。
1月	3章 電流と磁界	空間に流れる電流のようすから電流の正体を見いだす。	・電流が電子の流れであることが分かっている。
2月		回路の各点を流れる電流や各部に加わる電圧には規則性があることを見いだす。	・自分で回路をつくったり、電流や電圧を測定したり、電気用図記号や回路図を正しくかくことができる。 ・回路の電流は電圧に比例すること、また、抵抗の意味が分かっている。
3月		磁石や電流のまわりには磁界ができたことを見いだす。	・電流は磁界から力を受けることが分かっている。 ・磁界の中で電流を流したときのコイルの動きを考えられる。

平成 31 年度 第 2 学年 英語科 シラバス			
1	週単位時間	4 時間	2 授業形態 学級単位の普通授業
3	使用教科書	東京書籍 「NEW HORIZON English Course 2」	
4	副教材としての使用教材など	エイゴラボ② (正進社)	
5	この教科書の学習のねらい	1. 外国語(英語)を通して、言語文化に対する理解を深めさせる。 2. 外国語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけさせる。 3. 聞くことや話すことなどの実践的なコミュニケーション能力の基礎を身につけさせる。	
6	授業の進め方	教科書を中心に、4技能(聞く・話す・読む・書く)の習得を念頭に学習活動を進める。 音読を中心に、全体、ペア、個人で練習をする。ペアワーク等を取り入れ、対話能力育成に努める。 基本文型の学習をプリントやワークを用いて演習し、会話練習等で定着を図る。 英語の歌や詩、映像などを通して英語に親しみを持つ。	
7	家庭学習や課題について	授業はもちろんのこと、家庭での学習も大切に、日々の努力を重ねましょう。家庭学習では授業の復習をしましょう。ワークやノート、プリントなど、宿題を毎回やりましょう。ワークもテストまでに何度も取り組みます。ノートはしっかり読む練習をした後、書く練習をします。自分の力に合わせて少しずつレベルを上げてできることを増やしていきましょう。授業で音読のテストも実施します。 また、単語テストも行い、語彙力を高めていきます。	
8	定期テストや評価の方法について	定期考査は1年に5回おこないます。 評価方法は、①授業態度、発表、音読、小テスト、単語テストなど②提出物や宿題チェック③定期テストを次の4つの観点で評価します。 I コミュニケーションへの関心・意欲・態度 II 表現の能力 III 理解の能力 IV 言語や文化についての知識・理解	
9	授業や学習に対するアドバイス	毎日の学習を大切にし、発表をたくさんしながら授業に意欲的に望みましょう。 もし、わからないところがあれば遠慮なく質問し、そのまま放っておかないこと。間違いを恐れずに、声に出して言う・読む・話すを心がけましょう。復習を大事にし、毎日少しずつ取り組んで知識を定着させましょう。書くことも読むことも毎日の習慣になるように繰り返すことが効果的です。	
10	年間の学習事項と評価		
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つけたい力)	指導の要点・評価事項など
4月	Unit 0 My Spring Vacation	これまでに習ったことを使って、具体的なものを紹介しながら、体験したことについてたずねたり伝えたりすることができる。	発表を聞いて概要を理解することができる。
	Unit 1 A Friend in a Sister School	過去の状態や、過去のある時点の動作についてのべることができる。自分や友達について、以前との違いを説明することができる。	be動詞の過去形、過去進行形、look + 形容詞の文の形・意味・用法に関する知識を身につける。日米の学校の違いに関する内容を理解することができる。
5月	Daily Scene 1 日記	日記を書くときの文章構成を知り、4文以上の英語で日記を書くことができる。	日記の構成に関する知識を身につけ、4文以上で日記を書くことができる。
	Unit 2 A Trip to the U.K.	自分の予定について述べるができる。SVOCの用法を理解・表現できる。人を何と呼ぶかを述べるができる。休暇や週末の予定についてたずねたり伝えたりすることができる。	未来を表すbe going to の文の形・意味・用法に関する知識を身につける。SVOCの文構造・用法を理解し、表現することができる。紹介されている観光地に関心を持ちその情報を読みとろうとする。
6月	Daily Scene 2 ていねいをお願い	場面や相手に応じて、ていねいに許可を求めたり、依頼したりすることができる。	May I?やCould you?の使い方に関する知識を身につけ、適切な依頼表現をすることができる。
	まとめと練習 1 be動詞のいろいろな働き	be動詞の過去形と、予定や未来を表すbe going toの形・意味・用法について復習し、理解を深める。	be動詞の過去形と未来を表すbe going toの文の形・意味・用法に関する知識を身につけている。
	学び方コーナー 1 辞書の使い方	辞書の構成について理解を深める。	辞書の構成についての知識を身につけている。
	Unit 3 Career Day	何かをする目的を述べるができる。夢や希望などについて述べるができる。情報をつけ足して説明することができる。自分の行きたい場所やしたいことなどについて、たずねたり伝えたりすることができる。	不定詞の副詞的用法、名詞的用法、形容詞的用法の形・意味・用法に関する知識を身につけ、表現することができる。職場体験のレポートを読んで、その内容を理解することができる。
7月	Daily Scene 3 メール	日常生活での出来事について、友達に4文以上の英語でメールを書くことができる。	自分の気持ちが伝わるようにメールを書いている。メールの構成に関する知識を身につけている。
	まとめと練習 2 不定詞	不定詞の形・意味・用法について復習し、理解を確かめる。	不定詞の形・意味・用法に関する知識を身につけている。
9月	Presentation 1 将来の夢	Unit3までに学んだ表現を使って、自分の将来の夢について4文以上の英文を書いて発表したり、友達の発表を聞いて質問し合ったりすることができる。	聞き手にわかりやすいように発表したり、発表を聞いて積極的に質問したり意見を述べている。将来の夢について自分の意見をまとめて発表することができる。世界の友達の将来の夢を理解すること
	Let's Read 1 The Carpenter's Gift	物語を読んで場面の変化や内容を理解したり、登場人物の心情に合わせて気持ちを込めて音読したりすることができる。	理解できないところがあっても挿絵を参考にしながら読み続けている。場面の変化や登場人物の心情などを理解することができる。
	Unit 4 Homestay in the United States	人にアドバイスをすることができる。自分の意志を述べたり、これからのことを予測したりすることができる。決まりごとについてたずねたり伝えたりすることができる。	ガイドブックを読んで、アドバイスの内容を理解することができる。have to, 助動詞のwill, mustの形・意味・用法を理解することができる。

10月	Daily Scene 4 電話の会話	電話での応答で、「…さんをお願いします」と取り次ぎをたのむことができる。	電話の場面での会話に積極的に取り組んでいる。電話で用件を理解することができる。
	まとめと練習3 助動詞	助動詞の形・意味・用法について復習し、理解を確かめる。	助動詞の形・意味・用法に関する知識を身につけている。
	学び方コーナー 2 文の読み方	文を意味のまとまりによって区切りながら読むことができる。	英語の語順や文の読み方に関する知識を身につけている。
	Unit 5 Universal Design	ある条件で何をするか述べることができる。自分の考えとその理由を述べるができる。どんなときに何をするかを述べるができる。	広告を読んだり、対話を聞いたりして、何が説明されているのかを理解することができる。接続詞if, that, when, becauseの形・意味・用法を理解できる。身近な話題について自分の意見とその理由を理解することができる。
11月	Daily Scene 5 道案内	乗り物での行き方をたずねたり、教えたりすることができる。	道案内の表現を理解し、会話に積極的に取り組んでいる。
	Unit 6 Rakugo in English	何があるかを述べるができる。自分の趣味や特技について述べるができる。何があるかをたずねたり伝えたりすることができる。	英語落語について関心を持ち、その特徴を理解しようとしている。There is, There are、動名詞(主語、目的語)の形・意味・用法を理解する。
12月	Daily Scene 6 詩	決められたルールの中で、英語で詩を書くことができる。	自分の気持ちを伝えようとして詩を書いている。
1月	Presentation 2 町紹介	Unit6までに学んだ表現を使って、自分の町について4文以上の英文を書いて発表したり、友達の発表を聞いて質問し合ったりすることができる。	スピーチ原稿を読んで世界の友達の町や住居について理解することができる。町を紹介するスピーチの構成に関する知識を身につけている。
	Let's Read 2 Try to Be the Only One	伝記を読んで、場面の変化や人物の心の動きを理解したり、ピクチャーカードなどを使って、あらすじを英語で発表したりすることができる。	物語を読んで、場面の変化や登場人物の心情などを理解することができる。
2月	Unit 7 The Movie <i>Dolphin Tale</i>	人やものについて、比べて説明することができる。あるテーマについて、資料などを用いて比較しながら説明することができる。	比較級、最上級の表現を理解することができる。人やものについて比べる英文を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができる。
	Daily Scene 7 買い物	自分の好みや要望を伝えながら買い物をするができる。	申し出の表現Shall I～?の使い方に関する知識を身につけている。
	まとめと練習4 比較表現	比較表現の形・意味・用法について復習し、理解を確かめる。	比較表現の形・意味・用法に関する知識を身につけている。
	学び方コーナー 3 意見の述べ方	賛成・反対や自分の意見を述べる表現を理解し適切に表現できる。	相手の意見に賛成したり反対したりする表現の使い方に関する知識を身につけている。
3月	Presentation 3 好きなこと・もの	Unit7までに学んだ表現を使って、自分の好きなこと・ものについて4文以上の英文を書いて発表したり、友達の発表を聞いて質問し合ったりすることができる。	好きなこと・ものを紹介するスピーチの構成に関する知識を身につけている。スピーチ原稿を読んで、世界の友達の好きなことについて理解することができる。
	Let's Read 3 Cooking with the Sun	説明文を読んで、紹介されているものの特徴や利点、筆者の主張などを理解したり、各段落のキーワードを見つけ、本文の要約をしたりすることができる。	説明文を読んで、紹介されているものの特徴や利点について理解し、筆者の主張などを読み取ることができる。

平成31年度 第2学年 音楽科 シラバス

1	週単位時間	2時間	2 授業形態	学級単位の普通授業
3	使用教科書	中学生の音楽2・3上、中学生の器楽 <教育芸術社>		
4	副教材としての使用教材など	音楽のワークブック 2・3年上 <奈良県中学校音楽教育研究会>		
5	この教科の学習のねらい	①音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味、関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を養う。 ②音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技術を身につけ、創造的に表現する能力を育てる。 ③多様な音楽に興味、関心をもち、幅広く鑑賞する能力を育てる。		
6	授業の進め方	リコーダー実技演奏、歌唱実技の実践を核に鑑賞、音楽理論、芸能音楽等の学習を深めていく。		
7	家庭学習や課題について	・実技テストで歌う曲の歌詞、メロディーを覚えましょう。 ・実技テストで演奏するアルトリコーダーの曲を練習しましょう。		
8	定期テストや評価の方法について	定期考査100点 実技評価約160点（歌唱実技：70～90(学期によって変更) リコーダー実技：60～90(学期によって変更)）その他提出物、鑑賞記述等を観点別に評価し5段階判定を行う。実技試験において病気、怪我等の考慮する事情がなく受験しない場合は最低評価とする。		
9	授業や学習に対するアドバイス	絶対に忘れ物をしないようにする。特にリコーダーを忘れると授業中なにもできません、注意しましょう。 歌唱は大きな声でハッキリと歌えるようにがんばろう。 繰り返し練習することで実技力は高まります。積極的に活動しましょう。		

10 年間の学習事項と評価

時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つけたい力)	指導の要点・評価事項など
4月 5月	リコーダーの復習	へ音～2点ニ音までの運指を確認する。	よい響きで音階が吹けているか。
	「夢の世界を」	8分の6拍子について理解し、リズムに乗って歌う。 2部合唱の響きを感じる。また両方のパートの音を歌唱し、ハーモニーの感覚を感じる。 強弱・繰り返しの記号について理解する。	8分の6拍子にのってのびのびと歌うことができているか。 それぞれのパートの音をしっかりとれているか。 曲想の響きを感じ取って表現できたか。
6月	リコーダー 「ラヴァースコンチェルト」	ト音～2点ハ音までの運指を活用しフレーズを滑らかに演奏する。 2重奏の響きを感じ演奏する。	運指が滑らかに行われているか。 上下両方のパートをしっかりと吹けているか。
	「翼をください」	フレーズにのり大きな声でのびのびと歌う。 強弱・繰り返しの記号について理解させる。	曲想にあわせて強弱をつけて歌うことができたか。
	鑑賞「フーガ短調」	パイプオルガンの響き・構造についてフーガの形式について知る。 バッハやパイプオルガンの他の作品について知る。	パイプオルガンの響きについて感じることができ、曲の形式を理解することができたか。 想像力を働かせ感想記述をしっかりと書くことができたか。
7月	長音階・短音階	長音階・短音階について知る。 全音・半音について学習する。	全音・半音を理解し、長音階・短音階の構造を理解できたか。
	「夏の思い出」 リコーダー実技試験 歌唱実技試験 「文化祭学年曲」 「文化祭クラス曲」	歌詞の内容を感じ取り、意味を踏まえて歌う。 文化祭に向け意欲・技術を高める。	旋律と歌詞の関係を理解し強弱をつけて歌っているか。 文化祭に向け意欲的に取り組んでいるか。

9月 10月	「文化祭学年曲」 「文化祭クラス曲」	文化祭に向け意欲・技術を高める。 合唱・ハーモニーの楽しさを感じる。	自分のパートの音をしっかりとれているか。 大きな声で歌詞をハッキリと歌えているか。 協力して歌えているか。
	リコーダー「威風堂々」	2点二音 1点嬰へ音など新しい運指を覚える。 旋律を滑らかに演奏する。	新しい運指をしっかりと覚えられているか。 旋律を止まらずに吹けているか。
11月	「文化祭学年曲」 「文化祭クラス曲」	文化祭に向け意欲・技術を高める。	文化祭当日一所懸命舞台上で歌えているか。
	「夏の日の贈り物」	旋律の美しさを感じのびのびと歌う。	旋律の動きを工夫し歌えているか。
	鑑賞「交響曲第5番ハ短調」 歌唱実技試験	交響曲やオーケストラについて理解し、ソナタ形式等の形を感じながら聴く。 ベートーヴェンや時代背景の考察を深める。	ソナタ形式について理解することができ、想像力豊かに鑑賞記述をすることができるか。
12月	リコーダー実技試験		
	「荒城の月」	歌詞の内容をしっかりと把握できる。 作詞・作曲者について理解する。 歌詞とメロディーの持つ情緒的な味わいを感じながら歌う。	歌詞とメロディーの美しさを感じながら、強弱をつけ歌うことができる。
1月	調号について	調号について理解する。	長調、短調の調号をわかることができる。
	「サンタルチア」	イタリア語で歌唱する。 強弱記号を活かし表情豊かに歌う。	イタリア語で歌唱できているか。 曲の特徴を捉え表情豊かに歌えているか。
	「鑑賞」日本の郷土芸能	日本の郷土芸能とその音楽の特徴を味わう。 本土と沖縄の音楽の違いを感じる。	郷土芸能の特徴を捉えられているか。 本土と沖縄の音楽の違いを感じられるか。
2月	「心の中にきらめいて」	合唱・ハーモニーの楽しさを感じる。 旋律の動きをうまくとらえる。	旋律の動きを工夫し歌えているか。
	リコーダー「星の世界を」 リコーダーアンサンブル試験	アンサンブル・ソロの両方を演奏できるようにする。	アンサンブル・ソロの練習が協力してできているか。
3月	歌唱実技試験 リコーダー実技試験		
	「文楽・歌舞伎」	文楽・歌舞伎についての歴史知識を深める。 関係する芸能音楽・楽器について理解する。	日本の伝統芸能に親しみを持ち、成り立ち等を理解できているか。

平成 31年度 第 2 学年 美術科 シラバス

1	週単位時間	1 時間	2 授業形態	一斉授業
3	使用教科書	書籍 日本文教出版「美術2・3上下」		
4	副教材としての 使用教材など	秀学社「美術資料」 秀学社「レタリング字典」		
5	この教科の学 習のねらい	①「美的, 造形的表現・想像」 ②文化・人間理解 ③心の教育		
6	授業の進め方	作業の準備物は早めに整えておくと、スムーズに内容に取りかかれます。まず一斉授業で説明をします。その後、ひとりひとり個別に対応してアドバイスし、個性を活かした作品になるよう助言します。授業の最後に片づけタイムがあります。		
7	家庭学習や課 題について	課題の「テーマ」を良く把握して制作しましょう。授業以外でもアイデアを練ったり、個人的に資料を集めることが、表現を豊かにしたり、すばらしい作品制作につながります。完成・提出期限を守りましょう。		
8	定期テストや評 価の方法につ いて	関心・意欲・態度は、授業の取り組みの集中度・作品の完成度・準備物(忘れ物がないよう)に。発想・構想の能力は、アイデアスケッチや作品の構成・構図・配色構想・技法活用の工夫など。創造的な技能は、具体的な技能(彩色・制作技術など)。鑑賞の能力は、期末テスト・授業プリント・制作記録など。		
9	授業や学習に 対するアドバ イス	週に1回の授業なので準備物は絶対に忘れないこと。アイデアを考えたり構想を練る時間がとても大切ですが、やみくもに考えてもいい発想は出てきません。普段からポスターや雑誌の表紙や、新聞など身の回りのいろいろなことから感覚を磨くことが大事です。芸術家の作品から学ぶこともできます。自分たちの周りにあるいろいろなデザインなどからも学べます。また、自然は最高の芸術です。自然の観察から学べるものも多いです。観察・好奇心・そして、まず表現してみる事が大事です。頭の中だけで考えないで何でもまず形を表現して少しずつ改良して作品を作っていきます。		
#	年間の学習事項と評価			
期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つけたい力)	指導の要点・評価事項など	
4月	オリエンテーション 奈良の文化財(鑑賞)	・美術の意味を考え目標を持つ ・奈良の文化財を知り、興味、関心を深める。 ・日本美術の多様さと素晴らしさに触れる	・自分たちの住む奈良県には、多くの世界的な文化財があることを知り、その素晴らしさを感じ	
5月 ~ 7月	・きり絵の制作 版画(シルクスクリーン)	・日本の伝統、きり絵に触れる。 ・版画、シルクスクリーンの特徴を知り、オリジナルなデザインを考え、Tシャツをつくる。	・独創的な図案の工夫 ・レタリングの美しさ ・単純化し、効果的なマークができたか ・道具を安全、正確に使えたか ・美しく、独創的なデザインを考ええたか	
9月 ~	「14歳の自叙伝」絵巻の制作  (水墨画について) (水彩について) (人物画について) (風景画について)	・美しく、使いやすいデザインを考え制作す ・立体作品の多様な表現のよさや美しさを感じ取る。 ・文字をデザインする。 ・毛筆と横に長い和紙を使い絵巻を制作す ・下書きせずにかく。 ・全ての場面に人物をかく。 ・赤、青、黄の三色から全ての色をつくる。 ・水墨画の基本を知る。 ・水彩画のさまざまな技法を知る。 ・人物画の描き方を知る。 ・風景画の描き方を知る。 ・遠近法を知る。	・表現の変化、線の美 ・画面構成の美しさ ・配色、彩色の美しさ ・表現の工夫ができたか ・透視図法を理解できたか。 ・毛筆の道具の使い方の理解と習得 ・学習したことを作品に生かしたか	
1月				
2月 ~ 3月	木彫(ホッチキス)	・木の持つ味わいを知る中で、木の特徴を生かして表現を工夫する ・使いやすさを考えて表現する	・使いやすいでざいんを工夫できたか ・美しく立体的に表現できたか ・表現を工夫して作品にいかせたか	

平成 31年度 第2学年 技術科 シラバス

1	週単位時間	1 時間	2 授業形態	一斉授業(教室)、実習(コンピュータ・第2技術室)
3	使用教科書	開隆堂「技術・家庭 技術分野」		
4	副教材としての使用教材など	実習教材(エネルギー変換可能な実用品) 技術・家庭ノート(技術分野) 「情報に関する技術のプリント類」		
5	この教科の学習のねらい	電気エネルギーを動力に変換できることを利用した作品を製作することによってエネルギー変換の仕組みを学ぶ。また、毎日使用する電気の正しい使い方を知ることで、感電や火災事故を防ぎ、よりよい生活ができる力をつけます。生活とコンピュータのかかわりを考えることができる。目的に応じたソフトウェアを選択し情報を処理することができる。「生物の育成に関する技術」は育成に適する条件と管理する方法を知り、目的とする生物の育成計画を立て、生物の栽培ができる。		
6	授業の進め方	「生物の育成」:生物の育成に適する条件と生物の育成環境を管理する方法を知り、生物育成に関する技術の適切な評価・活用について考える。また、目的とする生物の育成計画を立て、生物の栽培ができる。(春に生育する植物の栽培を予定しています。) 「情報に関する技術」の分野は授業のほとんどがコンピュータ室での実習となります。まず、全体指導をプロジェクターで行い、個別指導を行います。「エネルギー変換に関する技術」の分野は学級教室での講義形式後、技術室での実習となります。実習は各班4名で行い、協力しながら作業を進めます。		
7	家庭学習や課題について	電気や機械・エネルギー問題や環境問題等に興味・意欲・関心を高めるため、実習内容や自分で調べた内容をレポート(プリント、ノート等に記入)にして提出してもらうことがあります。ノートも毎学期末に提出してもらいます。		
8	定期テストや評価の方法について	学期末に1回、1年間で3回の期末テストを実施し、基本的な内容が理解できているかを評価します(知識・理解)。またノートやレポート等の提出物で授業への意欲的な参加や内容の創意・工夫を評価します。実習作業を通して、意欲を持って作業しているか、作品の出来から創意・工夫と技能を評価します。		
9	授業や学習に対するアドバイス	授業では教科書・ノートなど忘れ物がないようにしましょう。「情報」:日常生活における情報通信の正しいありかたを考察するとともに実習を通して様々なコンピュータの操作を体得できるよう実践していきましょう。「生物の育成」:小学校の時に学校や家庭で実践していた植物の栽培や動物の飼育を系統だてて科学的に捉え、観察力やデータ分析力を養うことを目的に、地道に丁寧に作業に取り組んでいきましょう。		
10	年間の学習事項と評価			
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つけたい力)	指導の要点・評価事項など	
4月	・生物の育成に関する基礎	目的とする生物の育成計画を立て、生物の栽培または飼育ができる。比較的短期間で成長する植物の栽培を予定。	生物の育成に適する条件と生物の育成環境を管理する方法を知り、生物育成に関する技術の適切な評価・活用について考える。	
5月				
6月	・情報と私たちの生活	日常生活にコンピュータがどう関わっているかを考え、知る。学校のコンピュータ室のコンピュータの基本構成と利用に関する約束を守り、基本的な操作方法としくみについて知るとともに技能を習得する。	コンピュータを取り扱う上での約束を守らせ、最低限の操作方法を指導する。本校コンピュータとインターネットを利用する最低限のガイドラインを守らせる。	
7月	・コンピュータと情報処理			
9月	エネルギー変換のしくみを調べよう	電気エネルギーを光・熱・動力にかえるためにはどのようにしたらよいのか知る	身近な電気製品の仕組みを理解し科学的な見解ができるようにする	
10月	エネルギー変換を利用したものを製作しよう	手工具を中心に正しい使用法を知り、作品を製作する中で正確な作業ができる技能を習得する。	安全指導、整理整頓、室内美化の徹底。	
11月		簡単な電気機器の修理ができる知識と技能を習得する。	各作業の正確さを評価する	
12月			問題点を自分で検証・解決する力を養う。(問題解決能力)	
1月	ソフトウェアの選択・情報の処理	ワード エクセル・パワーポイント 基本操作マスター		
2月	・ネットワークと情報セキュリティ	・インターネットやメールなどを利用するときのモラルのある使い方ができるようになる。	誤ったネットの利用が、知らず間に被害者・加害者になり得る事を押さえる。	
3月	・情報モラルと知的財産	・インターネットやメールなどを利用するとき、安全な使い方を知り、正しく使えるようになる。		

平成 31 年度 第 2 学年 家庭科		シラバス	
1	週単位時間	1 時間	2 授業形態
3		使用教科書 開隆堂「技術・家庭 家庭分野」	
4	副教材としての使用教材など	技術・家庭ノート 家庭分野(ワーク)、実習の記録、エプロン・三角巾・ふきん、調理用具	
5	この教科の学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達に必要な栄養や食品の性質について理解し、日常食の調理を通して簡単な食事を整えることができるようになります。</li> <li>・衣服のはたらきと選び方を理解し、日常着の簡単な手入れと補修ができ、快適な衣生活ができるようになります。</li> </ul>	
6	授業の進め方	学級教室での一斉授業が中心ですが、調理室で実習をする時は、6～7人の班で計画・実習をします。	
7	家庭学習や課題について	学校の授業だけでなく、家庭での食生活に関わる仕事を実践することでより確かな力となります。実践内容や調べた内容をレポートにまとめて提出してもらうことがあります。取り組み状況は評価の対象となります。	
8	定期テストや評価の方法について	学期末に1回、1年間で3回の期末テストを実施し、基本的な内容が理解できているかを評価します(知識・理解)。またワークやレポート等の提出物で授業への意欲的な参加や内容の創意・工夫を評価します。	
9	授業や学習に対するアドバイス	準備物(教科書・ワーク)を忘れず、意欲的に取り組みましょう。また、学習したことを家庭の中で実践する習慣を付けましょう。	
10 年間の学習事項と評価			
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つきたい力)	指導の要点・評価事項など
4月	食品の選択と保存		
5月		・生鮮食品や加工食品の品質を見分け、用途に応じて適切に選択できる。	
6月			・加工食品の表示やマーク、食品添加物について理解できたか。
7月	調理をしよう	・調理実習の手順を理解し、実習の計画をたてることができる。	・調理実習の中での動きや協力、技能及び忘れ物がないかチェックする。
9月	よりよい食生活をめざして	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水の使い方やごみの始末のし方を理解し、環境に配慮した衛生的な実習ができる。</li> <li>・調理実習の手順にそって安全で計画的な実習ができる。</li> <li>・食生活を取り巻く問題に関心をもち、食生活を見つめ、自分にできることから実践しようとする。</li> </ul>	・安全と衛生に気をつけ、食品や器具の適切な取り扱いができる。
10月	自分らしく着る・快適に着る	・衣服のはたらきと選び方を理解する。	・個性を活かした着方を考え、目的に応じた服装の工夫ができていないか。
11月	日常着の活用	・TPOを考えた服装をデザインする。	
12月			
1月	日常着の手入れ	・衣服に使われる繊維の特徴を知り、衣服の手入れや補修のしかたを理解する。	・衣服の表示や衣服の材料に応じた手入れの方法があることを知る。
2月		・環境に配慮した衣生活が送れるようにする。	・環境に配慮した洗濯について考えることができたか。
3月		・ペンケース作りを通して基礎縫いのしかた(本返し縫い・直線縫い・ボタン・スナップつけ・まつり縫い)ができる。	・本返し縫いや直線縫い、ボタン・スナップつけ・まつり縫いができたか。



平成 31 年度 第 2 学年 男子 保健体育科 シラバス

1	週単位時間	3 時間	2 授業形態	男女別修
3	使用教科書	新中学保健体育 学研		
4	副教材としての使用教材など	新中学保健体育の学習2(学研)		
5	この教科の学習のねらい	積極的に運動に親しむ資質や能力の育成 健康の保持増進のための実践力の育成 体力の向上、及び心の成長の育成		
6	授業の進め方	体育実技は、男女別に行うことを基本としていますが、男女共修で行う単元もあります。 保健は、男女別、もしくは学級ごとに行います。 授業のはじめには、ラジオ体操第2とトレーニングを行い、体力の向上に取り組んでいます。		
7	家庭学習や課題について	生涯にわたって健康を維持するために、毎日の生活に運動を取り入れていく工夫をしましょう。 長期休業には、体力向上のための自主トレーニング(パワーアップメニュー)があります。		
8	定期テストや評価の方法について	関心・意欲・態度については、授業の出席、見学、遅刻、忘れ物や、授業での準備、片付けなど毎時間の授業への参加態度などから評価します。 思考・判断については、授業内で使用するプリントや、学習ノート、パワーアップメニューなど、提出物などから評価します。 技能については、実技の単元ごとに、実技テストを実施します。記録を測ったり、フォームを見たり、達成度を見たりと、いろいろな角度から運動技能を評価します。 知識理解については、学期に一度、定期テストをおこないます。		
9	授業や学習に対するアドバイス	まず、欠席や見学がなく体操服で授業に参加することが大前提です。 見学についても、体操服が基本です。みんなと同じように授業に参加することができない場合も、できることを自分から積極的に行う姿勢をもってください。 頭髪・くつ・つめなど、安全に運動できるよう心がけましょう。		
10	年間の学習事項と評価			
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つきたい力)	指導の要点・評価事項など	
4月	体づくり運動 集団行動	・自分の体力を知り、向上をめざす ・ラジオ体操第2を正しく身につける ・基本的な集団行動を身につける	・ラジオ体操第2テスト ・集団行動ができていないか	
5月	新体力テスト 陸上競技(走幅跳び)	・助走と踏みきりのリズムをつくり、遠くに跳べるフォームを身につける	・体力テスト記録測定 ・実技テスト	
6月	水泳 バレーボール	・長く泳げるようにする ・バスの基本を身につける ・サーブ・レシーブ・トス・スパイクの技術を身につける ・三段攻撃をつくる簡易ゲームができる	・タイム測定 ・実技テスト	
		保健 ・環境に対しての身体の適応能力を理解する ・環境と健康の密接なかわりを理解する ・地球環境について考え、実行できる力をつける	・定期テスト	
9月	体育大会練習 器械運動(跳び箱)	・集団行動・体操・行進をきちんとおこなう ・踏切、空中局面、着地の基本の身につけ発展させる ・個人に応じた種目に挑戦し、スキルアップを楽しむ	・実技テスト	
10月	バスケットボール		・実技テスト	
11月	陸上競技(ハードル)	・傷害は、人的要因や環境要因などが関わり発生することを理解する ・傷害の多くは安全な行動と環境の改善で防止できることを理解する	・実技テスト	
12月		・スムーズによくハードルをまたぐことができるようになる ・リズムカルにインターバルを走る	・定期テスト ・タイム測定 ・記録測定	
1月	サッカー 長距離走	・基本的な技術を身につけ、ゲームの中で集団技能を組み立てる ・持久力を伸ばし、長い距離を速く走れるようにする	・タイム測定 ・記録測定 ・実技テスト	
2月		保健 ・応急手当を行うことで、傷害の悪化防止ができることを理解する ・応急手当の基本を知り、包帯法を実習し身につける	・定期テスト	
3月				

平成 31年度 第 2 学年 女子 保健体育科 シラバス

1	週単位時間	3 時間	2 授業形態	男女別修
3	使用教科書	新中学保健体育 学研		
4	副教材としての 使用教材など	新中学保健体育の学習2(学研)		
5	この教科の学習 のねらい	積極的に運動に親しむ資質や能力の育成 健康の保持増進のための実践力の育成 体力の向上、及び心の成長の育成		
6	授業の進め方	体育実技は、男女別に行うことを基本としていますが、男女共修で行う単元もあります。 保健は、男女別、もしくは学級ごとに行います。 授業のはじめには、ラジオ体操第2とトレーニングを行い、体力の向上に取り組んでいます。		
7	家庭学習や課題 について	生涯にわたって健康を維持するために、毎日の生活に運動を取り入れていく工夫をしましょう。 長期休業には、体力向上のための自主トレーニング(パワーアップメニュー)があります。		
8	定期テストや評価 の方法について	関心・意欲・態度については、授業の出席、見学、遅刻、忘れ物や、授業での準備、片付けなど毎時間の授業への参加態度などから評価します。 思考・判断については、授業内で使用するプリントや、学習ノート、パワーアップメニューなど、提出物などから評価します。 技能については、実技の単元ごとに、実技テストを実施します。記録を測ったり、フォームを見たり、達成度を見たりと、いろいろな角度から運動技能を評価します。 知識理解については、学期に一度、定期テストをおこないます。		
9	授業や学習に対 するアドバイス	まず、欠席や見学がなく体操服で授業に参加することが大前提です。 見学についても、体操服が基本です。みんなと同じように授業に参加することができない場合も、できることを自分から積極的に行う姿勢をもってください。 頭髮・くつ・つめなど、安全に運動できるよう心がけましょう。		
10	年間の学習事項と評価			
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つきたい力)	指導の要点・評価事項など	
4月	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の体力を知り、向上をめざす</li> <li>ラジオ体操第2を正しく身につける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テスト記録測定</li> <li>ラジオ体操第2テスト</li> </ul>	
5月	集団行動 新体力テスト バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な集団行動を身につける</li> <li>パスの基本を身につける</li> <li>サーブ、レシーブ、トスの技術を身につける</li> <li>三段攻撃をつくる簡易ゲームができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団行動ができているか</li> <li>体力テスト記録測定</li> <li>実技テスト</li> </ul>	
6月	水泳 陸上競技(走幅跳び)	<ul style="list-style-type: none"> <li>長く泳げるようにする</li> <li>助走と踏みきりのリズムをつくり、遠くに跳べるフォームを身につける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイム測定</li> <li>実技テスト</li> </ul>	
7月	保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に対しての身体の適応能力を理解する</li> <li>環境と健康の密接なかわりを理解する</li> <li>地球環境について考え、実行できる力をつける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期テスト</li> </ul>	
9月	体育大会練習 陸上競技(ハードル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団行動・体操・行進をきちんとおこなう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録測定</li> <li>実技テスト</li> </ul>	
10月	ダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>リズムにのることができる</li> <li>動きのアイデアを考えることができる</li> <li>グループで曲に応じた動きをつくることができる</li> <li>発表会をおこない、鑑賞することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品作り</li> <li>リズムにのっておどれているか</li> </ul>	
11月	保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>傷害は、人的要因や環境要因などが関わり発生することを理解する</li> <li>傷害の多くは安全な行動と環境の改善で防止できることを理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期テスト</li> </ul>	
12月			<ul style="list-style-type: none"> <li>定期テスト</li> </ul>	
1月	長距離走・縄跳び	<ul style="list-style-type: none"> <li>持久力を伸ばし、長い距離を速く走れるようにする</li> <li>なわの換り方を知り、いろいろな種目に挑戦する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイム測定</li> <li>記録測定</li> <li>実技テスト</li> </ul>	
2月	バスケットボール	<ul style="list-style-type: none"> <li>応急手当を行うことで、傷害の悪化防止ができることを理解する</li> <li>応急手当の基本を知り、包帯法を実習し身につける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実技テスト</li> <li>定期テスト</li> </ul>	
3月		<ul style="list-style-type: none"> <li>パス・ドリブル・シュートの技術の基本を身につける</li> <li>対人の技術の基本を身につける</li> <li>協力して簡易ゲームをおこなう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実技テスト</li> <li>定期テスト</li> </ul>	